

# 倉橋の歴史（古代編）

※倉橋町史（平成13年刊行）参考

<目次>

1	島の名のおこり
2	遣新羅使と万葉集
3	長門島と音戸の瀬戸
4	和同開珎
5	遣唐使船の建造

## 1 島の名のおこり

### (1) 奈良県橿原市から木簡が出土

(表) 安芸国安芸郡〇里  
(裏) 倉橋部〇〇調塩三斗

安芸国（広島県）在住の成人  
租税（調）として塩3斗納める  
塩なので沿岸部→今の倉橋？

### (2) 倉橋部

- ・崇峻天皇（587～592）大和国十市郡倉橋に宮を置く（倉橋柴垣宮）
- ・崇峻天皇の倉橋柴垣宮で警備・雑用を仕える人々の生活費を負担する集団であった。この集団が天皇に仕えたという誇りを記憶にとどめ、後に全国に散って、「倉橋部」の氏姓を名乗り、地名の元となった。

## 2 遣新羅使と万葉集

### (1) 航路

- ・遣唐使船、遣新羅船のような大きな船は音戸の瀬戸航路を通らず、倉橋沖航路を通った。
- ・倉橋島の「磯辺」（桂浜）は、それらの船の寄港地に指定された。

### (2) 万葉集の歌

- ・天平8（736）年、阿倍継麻呂ら遣新羅使一行は桂浜に寄港し、島民の接待を受けた。
- ・倉橋島のわずかな滞在時間のなかで、接待を受け、散策し五首の歌を残した。

「石走る瀧もとどろに鳴く蟬の声をし聞けば都し思ほゆ」

「山川の清き川瀬に遊べども奈良の都は忘れかねつも」

「磯の間ゆ激つ山川絶えずあらばまたもあい見む秋かたまけて」

「恋繁み慰めかねてひぐらしの鳴く島陰に廬するかも」

「わが命を長門の島の小松原幾代を経てか神さびわたる」

・一行は翌日夜半次の寄港地麻里布（岩国市）に向けて出航，その時更に三首の歌を残した。

「月よみの光を清み夕風に水手の声呼び浦廻漕ぐかも」

「山の端に月かたぶけば漁する海人の燈火おきになづさふ」

「われのみや夜船は漕ぐと思へれば沖辺の方に揖の音すなり」

### 3 長門島と音戸の瀬戸

#### (1) 長門島の名前の所以

大向の伝（善）太郎鼻から，東能美島までの狭い水域（早瀬の瀬戸，柿浦から田原，渡ノ子）が長い門のような海峡になっていることから「長門島」というようになったとも言われている。

#### (2) 音戸の瀬戸航路

平安末期，平清盛によって開削されたという俗説があるが，奈良時代からすでに内海航路の「要所」であった。

広島湾，呉湾から音戸の瀬戸に近づいた船は，航行時，最初の関門はナベを伏せたような形をした「鍋山」の岬，その断崖の脇には「烏小島」と呼ばれる岩礁群が広がる難所，ここを通過したら，前面には今度はカタツムリのような形をした「舞々尻」の岬が見え，そこを過ぎると『瀧のごとく潮はやくせばき』音戸の瀬戸となる。

倉橋周辺の古代の航路は，北岸の音戸瀬戸ルートと南岸の倉橋沖ルートがあった。

なお，鍋・舞々尻・蕪崎（冠崎）・亀ヶ首などの地名は，道具や動物・植物などの名前からとってあり，海上からその形が連想できる。つまり，住民の生活からではなく，海上の航海者からできた地名なのである。

### 4 和同開珎

倉橋町最東端の亀ヶ首から，明治45年，4枚つづりの和同開珎の「枝銭（※）」が出土した。当時，この亀ヶ首が鑄銭司跡かと推定したが，結局周防・長門の鑄銭司から海路で都へ運搬中，亀ヶ首に寄港し，輸送中の航海安全祈願のため奉献したものと考えられる。ここから，亀ヶ首がはやくから風待ち・潮待ちの泊として使用されたことがうかがえる。

※「枝銭」……鑄型からはずしたままのバリ付きの未使用銭。

## 5 遣唐使船の建造

### (1) テーマ

「日本書紀」「続日本紀」の造船記事には、安芸国も命じて造らせたところだけで場所の特定はない。どこで造ったのか。倉橋で造ったのか。

### (2) 当時の建造までの流れ

- ・ 政府が遣唐使の派遣，建造を決定→建造する国の選定
- ・ 安芸国が選定されると，建造着手，完成時期や所要資材の品目，数量の見積り通達
- ・ 安芸国はただちに造船場所を決める。
- ・ 建造の最高責任者である勅使のほか事務官，木工寮工部ら安芸国へ
- ・ 安芸国到着の勅使などは，国司や軍司とともに造船場所へ
- ・ (造船開始)

### (3) 倉橋での建造の可能性 (いくつかの根拠)

- ・ 大型船なので喫水が深く，潮の流れが早く，砂浜が発達していることが必要 → 倉橋には「桂浜」などの適地がある。
- ・ 倉橋の地名に「唐船浜」や「唐渡 (鹿老渡)」など，連想させる名称が存在している。
- ・ 江戸時代を中心に隆盛を極めた倉橋の造船業の技術はどこから発祥したのか → 当時の最先端の造船技術を，今度は自分の船の建造に生かし後世の基礎を築いたのではないか。
- ・ 江戸時代に書かれた「芸藩通史」に倉橋が明記されている。

◎日本最初の大船を造ったのは倉橋であるという誇りを語る伝承は，倉橋に船大工たちが，遣唐使船を建造したことさえ忘れ去った後に，なお残っていた記憶なのかもしれない……